

平成28年1月

新規受託項目のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。
この度、新規項目を登録いたしましたので、ご案内いたします。
弊社におきましてはご要望に幅広くお応えすべく研鑽を重ねてまいりますので、
今後共引き続きお引き立ての程お願い申し上げます。

敬白

***** 記 *****

■新規受託項目

項目 No.	26524	26112
検査項目名	Gly m 4/IgE 大豆由来※1	Hev b 6.02/IgE ラテックス由来※2
検体量	血清 0.2mL	
保存方法	冷蔵	
検査方法	FEIA 法	
基準値	0.34 以下 UA/mL クラス(O)	
検査実施料	各 110 点 (免疫学的検査 144 点)	
所要日数	2~3日	

※1. 大豆は枝豆などそのままを食する以外に、豆腐や納豆、豆乳などをはじめとする様々な加工品があり、豆乳等を摂取した際に口腔内に掻痒感を覚えるなどアレルギー症状を訴える患者さんが増加傾向にあると言われております。

近年、花粉関連食物アレルギー症候群(pollen-associated food allergy syndrome:P F S)が増加傾向にあり、P F Sは口腔アレルギー症候群(oral allergy syndrome:O A S)の中で花粉症に合併することが多い食物アレルギーとされています。大豆のコンポーネントの一つである「Gly m 4」は、シラカンバやハンノキ等のカバノキ科花粉の主要抗原であるP R-10(Bet v 1 ホモログ)と高い相同性を持つとされており、P F Sに関連するコンポーネントの一つと考えられています。

豆乳等の大豆加工品によるアレルギーが疑われる患者さんには、通常行われている粗抽出抗原による「大豆」では陽性になりにくい場合があるため、「Gly m 4」を検査することにより陽性率の向上が期待され、P F Sによる即時型アレルギーの診断に有用と考えます。

※2. ラテックスアレルギー(LA)は、ラテックス製手袋などを用いることが多い医療従事者で発症する例が多いとされています。従来粗抽出抗原を用いた「ラテックス」では、陽性と判断された場合でも、実際にラテックス製品を使用して症状が出ない例もありました。

そこで、粗抽出抗原を用いた「ラテックス」と「Hev b 6.02」がいずれも陽性の結果であれば、ラテックスアレルギーの可能性が高まります。従来「ラテックス」と臨床的特異度が高い「Hev b 6.02」を組み合わせて使用することで、LA 診断効率が向上できるものと考えます。

■実施日

平成28年2月1日(月) 受付分より